

令和7年度 第3回可美小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年12月9日（火）10：00～12:00
- 2 開催場所 可美小学校 会議室
- 3 出席委員 大畠尉智子 小野田和弘 杉本真弓 小野田哲也 山本浩司
越川真優子（学校支援CD兼務） 神田綾乃（学校支援CD兼務）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 鈴木右二（校長） 高木悦代（教頭） 浅井美幸（主幹教諭）
長谷川明美（CS担当教諭）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 河合昭子
- 8 開催要件の確認 司会の高木教頭から委員総数7名全員の出席があり、過半数に達しているので会議が成立している旨の報告があった。
- 9 議長選出 大畠会長で前回決定している。全員了承。
- 10 協議事項 (1) 全国学力・学習状況調査を振り返って
(2) 来年度の学校運営について
- 11 会議記録 (1) 全国学力・学習状況調査について、別紙資料に基づき、浅井主幹教諭から説明があった。
・今年は理科も行った。
・教員も研修で問題を解いて分析する研修を行った。
委員からは以下の意見があった。
○通常学級はもちろん、発達支援学級、外国人児童なども入っているので、パーセントだけにこだわらず、個人を見ることを大切にしたい。（小野田和弘委員）
○「朝食を毎日食べている」割合が全国平均より低いのが気になった。（杉本副会長）
○学習支援をすると、答えをすぐ求めたがる傾向があり、早くやろうとする。じっくり取り組むのが苦手。面倒くさいとなってしまう。読書などしてじっくり取り組むなどの機会があるとよい。書くことが日常だった時代から考えるところこつ積み上げていくこと、ディスカッションすることなどを大切にしていきたい。音楽会を見て、みんな安心して活動していることを感じた。（杉本副会長）
○文章問題は、文章を読まずに、質問を見て答えを探すという形で解いているという傾向になってしまっているのではないか。本好きな子はそうではないと思うが。（大畠会長）
○読書は個人差が大きい。自分の息子は読書好き。4年の音楽会のピアノの子が上手だった。（小野田哲也委員）
○文章を楽しんで読めないのは、時間が足りないということだと思うが、紙の媒体に触れる機会が減っている。タブレットに触れる機会が多くなることで、文章を書く機会も減っている。場に応じて、機会に応じて使ってほしい。（神田委員）
○情報機器に関する質問の内容を教えてほしい。（山本委員）
→主幹教諭から質問が読み上げられた。（主に自分でどの位できるかを問う質問）
それについて委員から以下の意見があった。

- 質問も細かい内容を聞いているとわかった。子ども達は巧みに機器を使っている。
先生方の負担も減っているのか。（山本委員）
→遅くまで教材を作っている先生もいる。先生たちも高レベルでICTを使用しているし
子どものスキルも上がっている。（校長より）
- 可美小は、ICTばかりにならないよう、書くことも取り入れていると言っている。そこも
頑張ってくれているが、時代的に書く力は弱くなってしまうかもしれない。（大畠会長）
- 機器の怖さも親はあるが、子どもは実践的。プレゼンを作る力などは社会人になっても
必要な力だと思う。（越川委員）
→情報モラルなども学校ではやってくれている。（大畠会長）
→可美中の中1の生徒が作った防災のプレゼンを見た。素晴らしい。中学の校長先生が「小学校でいっぱい使ってくれているからできる」と話していた。何を伝えるか、
どう伝えるかが大事。伝える力が身についている。（杉本副会長）
- (2) 来年度の学校運営について校長より説明があった。
- ①グランドデザインについて、来年度も継続したい。
 - ②不登校児童対策として今年度設置した、不登校コーディネーター長谷川先生と校内まな
びの教室はあとルーム。今まで来られなかつた児童が来られるようになったことは良い
こと。教室ではおとなしい子どもたちが、あとルームでは元気に楽しく過ごしている
のを見ると、居場所になっていると感じる。一定の成果は出ている。
 - ③誰もが輝く可美小
子どもにどう支援していくかが重要。
授業が変わってきている。子どもたちは授業の中で自分の課題を見つけて考えを共有し
深める。受け身の授業ではなくになっている。自分で話す相手を見つけて関わっていく。
一斉授業ではない。自分から動いていかなければいけない、選択していかなければならない。
緘黙の子どもや消極的な子どもにとっては厳しい面もある。自分の考え方の根拠を
説明したり、違うときにどうするか考えたりして主体的に学ぶ。お互いの良い面を見つ
けて、尊重し合い、だれもが輝くことができる学校を目指したい。
来年度CS5年目。子どもたちや職員がより地域とつながり、地域で子どもたちを育て
る。学校に来たくなる子を増やしたい。
- 委員から以下の意見があった。
- 子どもの顔を見るとうれしくなる。近所の子を見つけた。（小野田和弘委員）
○校長先生の熱い思いが盛り込まれた来年度の経営方針だった。
廊下の絵、のびのびとしたいい絵が多かった。寂しい絵もあった。
落ち着いて、意欲的に活動していた。（杉本副会長）
- 午前5時間授業はどうだったのか。（小野田哲也委員）
→先生たちは放課後の時間が取れてよかったです。子どもたちは午前に5時間やるのは
よかったです。慣れればよい。実施している他校によると授業日数が短くて済む。
朝の時間が確保できない（読書、防災など）時期によって組み込むのがいいかも。
（校長より）
→先生たちが忙しい時期に行うと良いかもしれない。（小野田哲也委員）

○絵がよかったです。より良い学校づくりのために、協力できることはしていきたい。

(山本委員)

○自主勉強のお手本が掲示してあった。知りたいことを追求していた。調べたいことがあると、発想豊かに調べることができていた。高学年になると筋道立てて調べることができていた。小さい頃からの積み重ねが大切だと思った。認め合いながら、自己肯定感を高められるとより良い学校になっていくと思う。(越川委員)

○支援が必要な子どもが多いという話だったが、他の学校と比べるとどうなのか、どのような対応がなされるのか気になった。授業参観ですれ違う6年生が挨拶をしてくれた。良い地域だと思う。自主学習のお手本が掲示してあったが、問題意識、課題意識を子どもたちが持ち、取り組み方など共有して教えてもらい、支援して底上げできると良い。(神田委員)

12 報 告 学校支援コーディネーターからの報告

- ・2学期はソーシングや校外学習にたくさんのボランティアの方に参加していただいた。
- ・回数を重ねるたびに、子どもたちの関りも積極的になり、話しかけられるようになったり、質問したりできるようになった。

13 連 絡

- (1) 次回開催日時 令和8年2月6日(金) 10:00~12:00 会議室
- (2) 次回の議長は大畠会長 全員一致で承認された。
- (3) 次回の熟議内容
 - ① 学校関係者評価
 - ② 次年度学校運営の基本方針について
 - ③ 学校運営協議会の自己評価
 - ④ 夢育やらまいかCS加算分の報告